

日刊 動労千葉

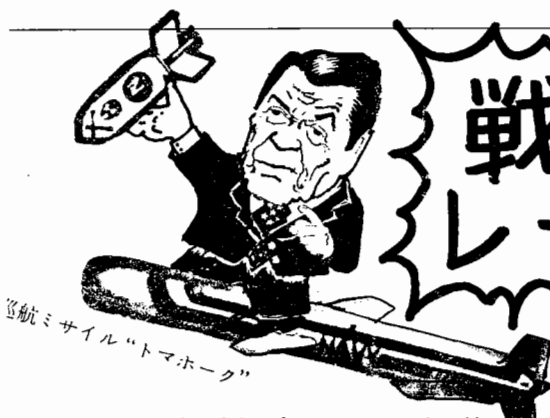
83. 11. 5

No. 1485

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六・公衆）〇四七二二二七二〇七

勝利争闘ジェット塚三里！ 粉碎革行調臨



戦争屋レーガン 11・9来日を阻止せよ

11・9の大高揚で、中曽根内閣打倒・59・2「粉碎」！

十一月九日にアメリカ大統領・レーガンがやってきました。レバノン、グレナダへの侵略をはじめ、全世界に戦争の火種をまき散らす憎むべき米帝国主義・レーガン来日の目的は、フィリピン・タイ・インドネシアなどで第二のグレナダを再現するものに他なりません。ヨーロッパを先頭に全世界でまき起こる反核闘争に連帯し、日本のプロレタリアートの責務にかけて戦争屋・レーガンの11・9来日を阻止しようではありませんか。

レバノン・グレナダ侵略の本質は何か

十一月二日の国連総会本会議で、グレナダからの外国軍隊の即時撤退を求める決議案が賛成百八反対九、棄権一七（日本は棄権）で圧倒的に採択されたことを見ても明らか。アメリカ帝国主義が全世界の批難を覚悟で人口十一万足らずの小さな国・グレナダを侵略した狙いは、一体何なのでしょう。また、ベトナム侵略戦争で大敗北をうけながら、勝算もなしにレバノン侵略第二のベトナム侵略戦争の泥沼に足を突っこんだのはなぜでしょうか。

それは、八二年度四二七億ドル（約十兆円）という巨額な赤字に象徴されるアメリカ経済の破綻とアメリカ、ECで三千万の失業者数に示される世界経済の破局的状況。アメリカによる世界支配体制の崩壊的危機に規定されているのです。

レーガンは、こうした帝国主義世界体制の危機を、「強いアメリカの復活」、「経済で失ったものは軍事でとりもどす」論理のもと、恐るべき軍拡・核軍拡の強行、後進国植民地への侵略、市場争奪戦、武器売りこみにより、世界の労働者人民の反戦、平和、民族解放の闘いを圧殺し、戦争にうったえても暴力的に貫徹することでのりきろうとしているのです。

国鉄労働者は、反動中曽根内閣打倒の最先頭に起とう

こうした世界体制の危機に揺さぶられた反動中曽根内閣は、追いつめられているがゆえに「戦後政治の総決算」を呼号し、より凶暴な攻撃にうつてできています。

「国鉄問題」を前面に押し出した「臨調」行革攻撃を軸に、一切の矛盾を労働者人民に押しつけ、福祉を切り捨て、労働運動を圧殺し、軍事大国化、改憲をもつて貿易摩擦をはじめとする「外圧」をかわし、アジア侵略に突き進もうとしています。しかし、この狙いは、逆に内外の矛盾を増大させ、支配体制の危機を深化させています。

ロッキード事件―有罪判決に対する田中角栄・自民党の居直りによって、異例の空転を続ける国会の状況は明らかに自民党支配の危機を示しています。

今こそ反動中曽根内閣打倒にすべての労働者人民が決起すべきときです。

すべての国鉄労働者は11・9に総決起し、動労革マルを放逐し「59・2」に勝利しよう。

「59・2ダイ改」は、全国で二四〇〇〇名の要員を削減する合理化であり、これは関連会社を含めて二万人の川鉄千葉製鉄所が丸ごとなくなっても余りあるほどの大合理化攻撃なのです。

例えば、東京・新鶴見操車場では八〇〇名の要員が何んと一〇〇名ほどに減らされる首切り・配転攻撃としてつきつけられてきています。

この攻撃と今闘わなくていつ闘うというのでしょうか。

もちろん、「職場と仕事と生活を守る」なる路線のもとで、中曽根―国鉄当局の尖兵となり果てた動労「本部」革マルが、国鉄労働者に合理化への協力と屈服を強要してくることは当然であります。

われわれ、国鉄労働者の総決起で「59・2」に勝利し、この闘いのなかで裏切り者・動労「本部」革マルをあらゆる職場から放逐していかうではありませんか。

そのためにも、すべての国鉄労働者は、11・9レーガン来日阻止闘争に決起しよう。



弱者を犠牲に 米艦戦機による10月26日の爆撃で破壊された、グレナダのリップモントヒル精神病院。患者の多数が死した。UPIサン

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！